



Risk Flash No.201 (Vol.5 No.43)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 教育の視点：本学eラーニングシステム (SULMS) とインタラクティブ性・・・Page 1
- 卒業生の視点：在日留学生・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・Page 2

教育の視点

本学 eラーニングシステム (SULMS) とインタラクティブ性

しょうじかずや
特任講師 庄司一也

本学には、教育学習を支援する eラーニングシステムとして、SULMS (サルムス・Shiga University Learning Management System) が存在します。

SULMS は eラーニングの特徴を最大限活かし、学生の学習理解・研究成果の向上に大きく寄与しています。すなわち、「いつでも・どこでも・だれでも学習できる」というユビキタス環境下で、自分のペースで納得いくまで学習ができるということです。

さて、この SULMS ですが、その根幹をなす「インタラクティブ性」について基本的なことを確認してみたいと思います。

eラーニングとは、経済産業省『eラーニング白書』においても「学習者とコンテンツ提供者との間にインタラクティブ性が確保されていること」を要件としています。つまり、eラーニングは従来の一方向的な受動的学習ではなく、双方向性が確立された能動的学習形態というわけです。

たとえば、本学の SULMS においても、オンラインレポートやオンライン小テストを受験(提出)するにとどまらず、インストラクタ(教員)から評価やコメントなどフィードバックを受けることができます。

また、SULMS フォーラム機能(電子掲示板)を用いれば、自分の発言のみならず、他者から意見をもらうこともできますし、さらにそれに返信することもできます。これらは「協調学習」と呼ばれますが、インタラクティブ性が要求される eラーニングにおいては最も重要な要素となります。

このインタラクティブ性が学生の主体性を高め、よりよい学習成果を実現していることは多くの研究や教育現場で証明されています。

現在部分的、単発的な利用にとどまっている本学の SULMS 運用状況を改善し、利用者を増やす、利用頻度を増やすために、どのような工夫、サポートが可能なのか検討していくことを今後の主軸として、より一層の教育環境充実に取り組んでいきたいと思っています。



卒業生の視点

在日留学生

いのうえてるしげ

井上輝重（昭和28年、大1回卒）

在日留学生が日本の第一印象を清潔・安全・親切・丁寧と言うのは、観光やビジネスで一時的に来日する外国人が言う初印象と同じく表面的な印象であって、在日年数が延びるにつれて微妙に変化します。日本人が外国に長期滞在していると、現地に対する評価は次第に厳しくなる傾向があるのと同じです。

留学生の在日期間は、日本語補習校での期間も含めると数年を越え、更に卒業後日本である期間雇用されれば通算期間は瞬く間に十年くらいにはなってしまう。これは在日外資企業に駐在中の有能な外国人ビジネスマンと比べて遜色ありませんが、留学生はアルバイトを飲食店給仕・皿洗いから、母国主催のセミナーやプレゼンテーション・ミーティングの下働きや通訳、語学塾や個人指導での母国語の先生役に至るまで広範囲に体験していますから、経験の範囲は、専門知識を別とすれば在日外国人ビジネスマンよりも広いかも知れません。

これらの経験に加えて、留学生と日本人学生との友情が育ってもらいたいと思います。友情は個人間に自然に芽生えるものですから学校や行政当局等から働き掛けてもらうのではなく、学生自らがゼミ、グループ研究会、部活、課外活動等に於いて活動プロジェクトに留学生を組み込む工夫をして、そこに友情が自然に発生するのが望ましい姿です。プロジェクト・メンバーの編成を学生が自発的に作ることは出来ます。お互いに嫌なメンバー編成になれば、学生同士による話し合いで調整もできます。現代の学生諸君はそのような組成調整能力に秀でているものと思います。

『滋賀大学留学生ミニ白書』を2012年版以来読ませて頂いています。入学直前学歴から入学後の履修状況、支援状況、そして最も把握が難しい卒業後状況に至るまで、作成を担当なさった学術国際課学生係の皆様に御礼申し上げます。引き続き白書の毎年発行をお待ちして居ります。

他方、日本人留学生よりも中国・韓国人学生が圧倒的に多いハーバード大留学から帰国した日本人女性の話によれば、入学の重要条件の一つに、課外活動への積極参加とそれに伴う時間・スケジュール管理能力が求められているようです。これは正に、卒業後の複雑な社会で求められる事の一つであり、全く同感です。

外国との付き合いが上手でない日本で育った学生には、選挙権も得た年代の大学・大学院在学時代に、外国人留学生との友人を僅かの人数であっても作るのは絶好の機会であり、この友情を長年に亘って続けて来た事が如何に貴重であったか、と気付く日が必ず来ます。

双方の国家・民族間の文化・経済・生活慣習の違いを認め合う友人を持つ者は、相手国を一方向的に嘲笑・侮蔑する様な人々を説得するリーダーとして、その存在価値は大です。

リスク研究センター通信

◆平成26年度 卒業式のご案内◆

平成26年度卒業式を次のとおり挙げていただきますので、お知らせします。

日時：平成27年3月25日（水）13時00分から（受付開始 12時00分から）

会場：びわ湖ホール（大津市打出浜 15-1）

詳しくは <http://www.shiga-u.ac.jp/2015/03/25/30977/> をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>